

令和 6 年度 秋期全国研修会 分科会・全体会 概要

□各分科会・全体会の参加について

●以下のプログラムは参加資格が必要です。

- ・B-1「被害者電話相談の基本(対応困難例を含む)」 ネットワーク加盟団体所属者のみ
- ・B-2「面接相談」 ネットワーク加盟団体所属者のみ
- ・B-4「直接的支援の実際」 ネットワーク加盟団体所属者のみ
- ・A-7・B-7「心理的支援専門職実務研修(1)(2)」

加盟団体または都道府県警察所属の有資格者(有資格者とは、支援センター所属の臨床心理士・公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士・精神科医の資格保持者、警察庁・都道府県警察の臨床心理士・公認心理師)のみ

上記以外のプログラムは参加条件、資格は問いません。

□実施形態について

【分科会】

- ・「対面」→現地参加(機械振興会館)

19日午前	A-1・A-2・A-3・A-4・A-7
19日午後	B-1・B-2・B-3・B-4・B-7
- ・「Zoom」→Zoom(オンライン)参加

19日午前	A-5・A-6	19日午後	B-5・B-6
-------	---------	-------	---------
- ・「サテライト聴講」→Zoom配信されている分科会をリアルタイムで機械振興会館にてサテライト聴講
(配信映像を聴講する形態です。グループワークや発言の機会はありません)

19日午前	A-8・A-9	19日午後	B-8・B-9
-------	---------	-------	---------

【全体会】

- ・「対面」「YouTube」→現地参加(機械振興会館)・ライブ配信のいずれかを選択

20日	全体会
-----	-----

□分科会の講義時間について **分科会によって講義時間(開始・終了時間)が異なります。**

10/19(土)AM 開催

全ての分科会(A-1～A-9)が 10:00～12:30 (150分)

10/19(土)PM 開催

B-1・B-2・B-3・B-4・B-7 は 13:30～16:30 (180分)

B-5・B-6・B-8・B-9 は 13:30～15:30 (120分)

□座席について

分科会(すべて 6 階)、全体会(地下 2 階)とも全席自由となります。

□機械振興会館 [アクセス | 機械振興会館 \(jspmi.or.jp\)](https://www.jspmi.or.jp)

令和6年度 秋期全国研修会 プログラム

10月19日(土) 分科会 6階

午前

		分科会A 10:00~12:30 (150分)			
研修名	対象(参加形態)	部屋(定員)	演題	講師(敬称略)	
A-1	どなたでも参加できます。(対面)	6D-1 (24名)	被害者支援における心理教育	森田ひろみ (NNVS認定コーディネーター・いばらき) 林貴子 (NNVS認定コーディネーター・ぎふ)	
A-2	どなたでも参加できます。(対面)	6-67 (38名)	思春期の子どもたちはどのように生きているのか～保健室での子どもたちとのかわりから～	菊池美奈子 (梅花女子大学看護学科准教授)	
A-3	どなたでも参加できます。(対面)	6-66 (66名)	司法面接の視点をふまえた被害者支援	仲真紀子 (国立研究開発法人理化学研究所理事)	
A-4	どなたでも参加できます。(対面)	6-65 (24名)	関係機関との連携 (自治体との連携)	能登啓元 (明石市政政局次長) 遠藤えりな (NNVS認定コーディネーター・ひょうご) 野崎さおり (NNVS認定コーディネーター・みやぎ)	
10:00 12:30	A-7	心理専門職・精神保健福祉士・社会福祉士対象 (対面)	6D-4 (34名)	心理的支援専門職実務研修(1)	岡本かおり (清泉女学院大学人間学部教授・被害者支援都民センター犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士) 齋藤梓 (上智大学総合人間科学部心理学科准教授・被害者支援都民センター犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士) 鶴田信子 (被害者支援都民センター心理相談担当責任者・犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士)
	A-5	どなたでも参加できます。(Zoom)	Zoom (40名)	外国人被害者支援の実際と課題	平井紀夫 (全国ネットワーク特別顧問) 工藤美貴子 (NNVS認定コーディネーター・あおもり) 高橋久代 (NNVS認定コーディネーター・くまもと)
	A-6	どなたでも参加できます。(Zoom)	Zoom (40名)	被害者遺族への支援を考える	黒川雅代子 (龍谷大学短期大学部社会福祉学科教授)
	A-8	どなたでも参加できます。(A-5のサテライト聴講)	6D-2 (26名)	外国人被害者支援の実際と課題	A-5サテライト講座
	A-9	どなたでも参加できます。(A-6のサテライト聴講)	6D-3 (26名)	被害者遺族への支援を考える	A-6サテライト講座

※A-8とA-9はZoom配信分科会(A-5・A-6)を会場(機械振興会館)のスクリーンで聴講する講座です。グループワークが実施された場合でもワークに参加はできません。

12:30~13:30 昼食・休憩(午後に参加する分科会教室を昼食場所としてご利用ください)

午後

		分科会B 13:30~16:30 (180分)			
研修名	対象(参加形態)	部屋(定員)	演題	講師(敬称略)	
13:30 16:30	B-1	加盟団体のみ (対面)	6D-1 (24名)	被害者電話相談の基本 (対応困難例を含む)	佐々木みどり (NNVS認定コーディネーター・神奈川) 藤澤由美子 (NNVS認定コーディネーター・大分)
	B-2	加盟団体のみ (対面)	6-67 (38名)	面接相談	森田ひろみ (NNVS認定コーディネーター・いばらき) 小島きぬ子 (NNVS認定コーディネーター・あいち)
	B-3	どなたでも参加できます。(対面)	6-66 (48名)	関係機関との連携 (少年事件に伴う支援)	伊東秀彦 (みどり総合法律事務所・弁護士) 藤田きよ子 (NNVS認定コーディネーター・千葉) 竹山律子 (NNVS認定コーディネーター・埼玉)
B-4	加盟団体のみ (対面)	6-65 (24名)	直接的支援の実際	片山文 (NNVS認定コーディネーター・おかもと) 高橋久代 (NNVS認定コーディネーター・くまもと)	
B-7	心理専門職・精神保健福祉士・社会福祉士対象 (対面)	6D-4 (34名)	心理的支援専門職実務研修(2)	岡本かおり (清泉女学院大学人間学部教授・被害者支援都民センター犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士) 齋藤梓 (上智大学総合人間科学部心理学科准教授・被害者支援都民センター犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士) 鶴田信子 (被害者支援都民センター心理相談担当責任者・犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士)	
		分科会B 13:30~15:30 (120分)			
13:30 15:30	B-5	どなたでも参加できます。(Zoom)	Zoom (40名)	学校で性暴力被害がおこったら	田口奈緒 (NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご理事、兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科部長)
	B-6	どなたでも参加できます。(Zoom)	Zoom (40名)	オンライン相談による性暴力被害者支援	遠藤智子 (一般社団法人社会的包摂サポートセンター事務局長)
B-8	どなたでも参加できます。(B-5のサテライト聴講)	6D-2 (26名)	学校で性暴力被害がおこったら	B-5サテライト講座	
B-9	どなたでも参加できます。(B-6のサテライト聴講)	6D-3 (26名)	オンライン相談による性暴力被害者支援	B-6サテライト講座	

※B-8とB-9はZoom配信分科会(B-5・B-6)を会場(機械振興会館)のスクリーンで聴講する講座です。グループワークが実施された場合でもワークに参加はできません。

★A-7とB-7は通し講座です。両方に参加出来る方を優先します。また、加盟団体または都道府県警察所属の有資格者のみが対象です。

有資格者とは、支援センター所属の臨床心理士・公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士・精神科医の資格保持者、警察庁・都道府県警察の臨床心理士・公認心理師を指します。

★「加盟団体」とは、全国被害者支援ネットワークに加盟している被害者支援センターを指します。

10月20日(日) 全体会 地下2階

全体会 9:40~12:00 入場開始9:20		定員:現地180名/YouTube配信200名 どなたでも参加できます。
	演題	登壇者・講師(敬称略)
9:40	開会挨拶・分科会総括	熊谷明彦 (全国ネットワーク副理事長、研修・支援活動部会長)
9:50 11:20	基調対談 「男児・男性の性暴力被害について」	岩室紳也 (ハルスプロモーション推進センター代表) 高岸幸弘 (熊本大学大学院人文社会科学部准教授)
	休憩	
11:30 12:00	栄誉章表彰式・認定式 秋期全国研修会閉会挨拶	表彰式・認定式: 椎橋隆幸 (全国ネットワーク理事長) 閉会挨拶: 椎橋隆幸 (全国ネットワーク理事長) 司会: 奥山栄一 (全国ネットワーク専務理事)

-----講義内容-----

10/19(土)午前 分科会 A 10:00~12:30

A-1 被害者支援における心理教育 **対面**

講師	森田ひろみ(NNVS 認定コーディネーター・いばらき) 林貴子(NNVS 認定コーディネーター・ぎふ)
対象	全員(参加条件なし)

犯罪被害のようなトラウマティックな体験をした場合、その後、トラウマ反応が生じることは「異常な出来事(犯罪)」に対する、「正常な反応(トラウマ反応)」である。被害後、生じているトラウマ反応について、被害者等が「知る・気づく・対処する」ことは、被害からの回復に非常に重要なこととなる。この「知る・気づく・対処する」ことを支援するのが、「心理教育」である。心理教育とは、被害者等に一方的にトラウマ反応を伝える・教育することではない。その身に生じているトラウマ反応に気づいてもらうこと、その対応を身に付けてもらうことにある。この分科会では、講義とロールプレイを中心に参加者と主に心理教育について考えていきたい。

A-2 思春期の子どもたちはどのように生きているのか ~保健室での子どもたちとのかわりから~ **対面**

講師	菊池美奈子(梅花女子大学看護学科准教授)
対象	全員(参加条件なし)

思春期にある子どもたちは大人でもない子どもでもない、これまで親に依存してきた関係から自立に向かう不安定な時期にあります。子どもたちは急激なからだの変化にとまどい、心とからだの発育はアンバランスとなる、「疾風怒涛」のような時期にあるとも言われています。このような思春期の子どもたちが自我同一性を獲得していき、自立に向かうためには、仲間(同世代)との関係性がなによりも重要となります。しかし、その仲間(同世代)との関係を築くことができずに思い悩み、あるいは心身の不調をきたして保健室に来る子どもは少なくありません。ときにはこれまでの発達課題の積み残しなどにより危機的な状況に陥ることもあります。そのような、思春期にある子どもたちがどのように生きているのか、29年間の養護教諭として出会ってきた子どもたちの姿を通して、見えてきたことをお話したいと思います。

A-3 司法面接の視点をふまえた被害者支援 **対面**

講師	仲真紀子(国立研究開発法人理化学研究所理事)
対象	全員(参加条件なし)

事件や事故の被害者、目撃者となった疑いのある子どもから、「何があったのか」を正確に聴取することは、事件や事故の解決や予防、そして支援の第一歩となる。しかし、子どもの記憶は容易に変遷し、外部の情報により影響を受けやすい。また、子どもは精神的に脆弱であり、繰り返し聴取を行うと、二次被害が引き起こされることも知られている。そのため、福祉や司法の現場では、被面接者の精神的負担をできるだけかけずに、正確な情報を引き出すことを目指す面接法(司法面接)が用いられるようになった(児童相談所、警察、検察が連携して行う場合、協同面接、代表者聴取という)。2023年の刑訴訟法の改正(第321条の3)により、このようにして聴取した供述の録音録画の記録は、法廷での証拠として用いることも可能になった。本研修では、司法面接の意義の理解と、基本スキルの習得を目指す。また、司法面接に至るまでに記憶を汚染しない工夫についても説明する。

A-4 関係機関との連携(自治体との連携) **対面**

講師	能登啓元(明石市政策局次長) 遠藤えりな(NNVS 認定コーディネーター・ひょうご) 野崎さおり(NNVS 認定コーディネーター・みやざき)
対象	全員(参加条件なし)

令和5年4月1日現在、46都道府県、13政令都市、606市区町村において犯罪被害者支援を目的とした条例が制定されている(令和5年度犯罪被害者白書より)。条例制定が広がりつつある中で、条例制定後の各自治体の取り組みは様々である。また、令和6年4月の「地方における途切れない支援の提供体制の強化に関する有識者検討会」の取りまとめによれば、都道府県が多機関ワンストップサービスの中核的役割を担うことが期待されており、自治体単位での関係機関の連携を進めていく状況になってきている。この分科会では、まず条例制定後の取り組みとして兵庫県明石市より条例制定後の状況や運用する中での課題などについて報告していただく。その上で、仮想事例を使って関係機関の連携支援についてグループワークを行い、それぞれの関係機関の支援の連携、調整について考えていきたい。

A-7・B-7 心理的支援専門職実務研修(1)(2) **対面**

※A-7・B-7は連続講座のため、両方受講できる方を優先します。

講師	岡本かおり(清泉女学院大学人間学部教授・被害者支援都民センター犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士) 齋藤梓(上智大学総合人間科学部心理学科准教授・被害者支援都民センター犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士) 鶴田信子(被害者支援都民センター心理相談担当責任者・犯罪被害相談員・公認心理師・臨床心理士)
対象	(参加条件あり)支援センター所属の臨床心理士・公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士・精神科医の資格保持者、警察庁・都道府県警察の臨床心理士・公認心理師

被害者支援領域での心理支援は、初回面接において、被害者や遺族の状態を聞き取り、トラウマ反応を見

立て、刑事手続などその後起こりうることを考慮した上でその後の見通しを立てるなど、領域に特化したスキルが求められる。また、面接回数が限られる場合も多く、少ない回数でしっかりと心理教育を行い、被害者や遺族が自分の状態を理解し、医療機関等の支援につながるようエンパワメントを行う必要もある。

初回面接・アセスメント、および心理教育は、トラウマインフォームド・ケア、そしてトラウマに特化した心理療法の基本であり、最も重要なスキルである。本研修では、相談員から情報提供を受けた上での初回面接・アセスメント、および心理教育について、講義、デモンストレーションビデオ(性被害)の視聴、ロールプレイを通して学ぶ。

また、2日目に架空(殺人事件遺族)の事例検討を行う。二日間を通じて相談員と連携を行いながらの心理支援について、参加者それぞれの工夫や疑問を共有し、被害者支援領域における心理支援職の横のつながりを作る機会としたい。

A-5 外国人被害者支援の実際と課題 [Zoom](#)

A-8 外国人被害者支援の実際と課題 [機械振興会館にてサテライト聴講](#)

講師	平井紀夫(全国被害者支援ネットワーク特別顧問) 進行役:工藤美貴子(NNVS 認定コーディネーター・あおもり被害者支援センター) 高橋久代(NNVS 認定コーディネーター・くまもと被害者支援センター)
対象	全員(参加条件なし)

令和3年度、全国被害者支援ネットワークに加盟する支援センターに対して行ったアンケート調査の中では、日本国内で犯罪被害にあった外国人被害者及び家族や遺族への支援はまだまだ数が少ないことがわかってきました。犯罪種別としては、性犯罪、殺人、暴行傷害が多く、支援内容としては面接、裁判関連支援、法律相談が多い結果となりました。言語は、英語、中国語、タガログ語が多く、その他多言語に亘っています。この分科会の中では、最初に海外でご家族が犯罪被害にあわれた際に様々な困難に直面された被害者ご遺族に、その経験に基づいてお話しいただき、次に犯罪被害者支援に携わる支援員、通訳者及び外国人被害者の方に対応すると思われる窓口の担当者等に必要な知識として「犯罪被害者の現状と被害者支援の実際」について情報の共有をしたいと思います。また、外国人被害者の方への対応の中で、通訳者の方の係わりが必要である実際の支援の場面について取り上げながら、外国人被害者の方への通訳者の必要性、重要性を一緒に考え理解を深めていきたいと思います。

※機械振興会館内には、Zoom 講義を個人の PC・スマホ等で聴講する場所がありませんので、機械振興会館で Zoom 講義の聴講を希望される場合は、サテライト聴講(A-8)を選択してください。

A-6 被害者遺族への支援を考える [Zoom](#)

A-9 被害者遺族への支援を考える [機械振興会館にてサテライト聴講](#)

講師	黒川雅代子(龍谷大学短期大学部社会福祉学科教授)
対象	全員(参加条件なし)

遺族の支援については、心理的なサポートに焦点が当てられることが多い。坂口(2022)は、遺族ケアを「情緒的サポート」「道具的サポート」「情動的サポート」「治療的介入」の4つに分類し述べている。

遺族への支援は包括的に考える必要がある。特に日常生活を支える支援である「道具的サポート」や起こり得る悲嘆反応や活用できる社会資源等の情報を伝える「情動的サポート」は、遺族が悲嘆に向き合うためのレジリエンスを引き出す支援であるといえる。

本講義では、遺族の包括的な支援について、考える機会としたい。

坂口幸弘(2022)『悲嘆学入門』昭和堂

※機械振興会館内には、Zoom 講義を個人の PC・スマホ等で聴講する場所がありませんので、機械振興会館で Zoom 講義の聴講を希望される場合は、サテライト聴講(A-9)を選択してください。

10/19(土)午後 分科会 B 13:30~16:30 または 13:30~15:30

B-1 被害者電話相談の基本（対応困難例を含む）**対面**

講師	佐々木みどり(NNVS 認定コーディネーター・神奈川) 藤澤由美子(NNVS 認定コーディネーター・大分)
対象	(参加条件あり)被害者支援センター(加盟団体)所属の支援員または相談員候補者 または犯罪被害相談員

支援の始まりである電話相談は、被害者支援を行っていくうえで重要なポイントである。被害者等は、初めて出会う支援者に心を開くことは容易ではない。被害者等の多くは、「話を聴いて欲しい」だけでなく、「情報提供」や他の支援を求めている。1本の電話を通して、被害者等との信頼関係を築き、情報提供、面接相談や直接支援へ繋げるスキルが必要になる。本研修では、講義とロールプレイを通して学び、参加者それぞれの感想等を共有する機会にする。

B-2 面接相談 **対面**

講師	森田ひろみ(NNVS 認定コーディネーター・いばらき) 小島きぬ子(NNVS 認定コーディネーター・あいち)
対象	(参加条件あり)被害者支援センター(加盟団体)所属の支援員または相談員候補者 または犯罪被害相談員

被害者等との最初の出会いは、その後の支援を進めていくうえで大切な場面となる。被害直後には、感情や感覚が麻痺し、現実感を無くしてしまっていることが多いため、お互いに顔を合わせることで、表情や全体を観察することができ共感的理解等を行いやすくなる。面接相談には、被害者等の状況を把握し、被害者の要望に添った支援メニューを提案し、相談者の自己決定を尊重した意思確認をしたうえで直接的支援につなげていく目的がある。

本分科会では、面接相談の進め方や留意点について学び、グループ討議やロールプレイの体験を通して理解を深めたい。

B-3 関係機関との連携（少年事件に伴う支援）**対面**

講師	伊東秀彦(みどり総合法律事務所・弁護士) 藤田きよ子(NNVS 認定コーディネーター・千葉) 竹山律子(NNVS 認定コーディネーター・埼玉)
対象	全員(参加条件なし)

犯罪被害者等の抱える問題は多岐にわたっているため、さまざまな関係機関・団体との連携は不可欠である。連携とは、異なる専門職や機関・団体が、共通の目的を持ち、情報の共有化を図り、協力し合うことで

良い支援を行うことを目的とする。

1部では、少年事件の流れに沿って、犯罪被害者等を支援する際の留意点を確認する。

2部では、講義に留まらず寸劇を通して、犯罪被害相談員が、警察官、弁護士等と連携し、実際の手続きの場面で、それぞれの役割を演じるのを見て、被害者等に接する際の留意点を学ぶ。

3部では、グループに分かれ、支援者として、どの機関につなげ、どの制度を使えば良いのかを話し合い、課題や留意点を共有したい。

B-4 直接的支援の実際 **対面**

講師	片山文(NNVS 認定コーディネーター・おかやま) 高橋久代(NNVS 認定コーディネーター・くまもと)
対象	(参加条件あり)被害者支援センター(加盟団体)所属の支援員または相談員候補者 または犯罪被害相談員

被害者支援センターが行う直接的支援には、関係機関(警察・検察庁・裁判所・弁護士事務所・病院・行政等)への付添支援や、生活支援等さまざまな内容がある。近年、刑事裁判においては、被害者参加制度の運用・裁判員裁判により、被害者やその家族、ご遺族の支援においては、新たな配慮や対応が求められている。この分科会では、付添支援を行うに際しての直接支援員の心構えや留意点について再確認し、さらに裁判所への付添いという実際の場面のロールプレイを行い、具体的な場面における対応(緊急事態を含む)や留意点について理解を深めたいと思う。

B-5 学校で性暴力被害がおこったら **Zoom**

B-8 学校で性暴力被害がおこったら **機械振興会館にてサテライト聴講**

講師	田口奈緒(NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうご理事、兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科部長)
対象	全員(参加条件なし)

筆者は兵庫県にある NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうごの代表として、また産婦人科医師として性暴力被害者支援の最前線で活動をおこなってきた。当法人が対応した被害者の多くは 18 才未満であり、学校が子どもたちの性被害や性虐待の第一発見の場となることも少なくない。

そのような現場のニーズから、筆者らは、平成 29 年(2017 年)国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究センター(RISTEX)の「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」領域に採択された「トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築」プロジェクトにおいて、「学校で性暴力被害がおこったら」という手引きを作成した(<https://onestop-hyogo.com/atschool/>)。

本研修では、もっとも学校側が苦慮する「性被害／加害の両児童生徒が同じ学校に在籍し、学校の管理下でおこった場合の対応」に焦点を絞り、初動のポイントや他機関との連携について解説する。

※機械振興会館内には、Zoom 講義を個人の PC・スマホ等で聴講する場所がありませんので、機械振興会館で Zoom 講義の聴講を希望される場合は、サテライト聴講(B-8)を選択してください。

B-6 オンライン相談による性暴力被害者支援 Zoom

B-9 オンライン相談による性暴力被害者支援 機械振興会館にてサテライト聴講

講師	遠藤智子(一般社団法人社会的包摂サポートセンター事務局長)
対象	全員(参加条件なし)

女性、特に性暴力被害に遭遇しやすい若年女性たちに性暴力被害が蔓延しているように見える。DV も同様だ。交際相手からの苛烈な暴力が相談現場では増加しているという体感がある。刑法性犯罪・DV 法が改正され、支援制度は進んでいるかのように見える。その対極で何かが歪んでいるように思えて仕方ない。知らず知らずのうちに、「被害」という概念の矮小化が進められているのではないか。「このくらいを被害というのか」という虐待者の声ばかりが大きく、被害者の「痛み」は軽く扱われてはいないだろうか。

インターネット上の書き込みや、相談事例(架空事例)を検証しながら、オンライン相談の強みを活かして「被害」を「被害」としてとらえることを「拡散し」、性暴力被害者の支援強化につなげていく方法を皆さんと考える研修としたい。

※機械振興会館内には、Zoom 講義を個人の PC・スマホ等で聴講する場所がありませんので、機械振興会館で Zoom 講義の聴講を希望される場合は、サテライト聴講(B-9)を選択してください。

10/20(日)午前 全体会 9:40~12:00

全体会 基調対談「男児・男性の性暴力被害について」

対面 + YouTube ライブ配信

講師	岩室 紳也 (ヘルスプロモーション推進センター代表) 高岸 幸弘 (熊本大学大学院人文社会科学部准教授)
対象	全員(参加条件なし)

男児・男性に対する性的被害は古くから存在してきたにも関わらず、長い間タブー視されてきた問題である。最近になり、ようやく社会的に認知され始めているとはいえ、「男は弱音を吐くべきではない」といった従来の価値観など様々な要因により、性的被害が相談されにくい現状がある。これは被害直後の相談だけではなく、歳月の経った過去の被害でも同様である。

この対談では、泌尿器科の医師であり、「コンドームの達人」として中学校・高校等で多くの講演を行い、エイズ予防を含めた幅広い健康づくり活動をされている岩室紳也先生と、児童福祉施設で臨床心理士として勤務された経験を持ち、男児・男性の性被害を研究テーマの一つとして取り組んでおられる臨床心理士の高岸幸弘先生のお二人に登壇していただき、男児・男性の性暴力被害の現状や課題について意見を交わす。